

## 小さな勇気

ひたちなか市立勝田第三中学校 二年

飛<sup>とび</sup>田<sup>た</sup>樹<sup>じゅ</sup>里<sup>り</sup>

私は、大人数というのが少し苦手です。クラスにいる時も、たいていは決まった友達と二人くらいにいる時の方が多いです。

中学一年生の時のことです。幸運にも親友と同じクラスになりました。最初の頃、絶対にその親友と同じ部活に入ろうと考えていました。しかし、二人で見学をしているうちに入りたい部活がばらばらになってしまいました。悩んだ結果、自分が入りたいと思う部活に行くのが一番だということになり、私は卓球部に入りました。

ところが、クラスで卓球部に入ったのは自分一人で、部活に入っても話せる人はおらず、だんだん部活に行くのが嫌になってしまいました。自分で選んだのに、と思うかも

しれません。その通りだと思います。だけど、いつも決まった人と小人数で過ごす私には、自分一人で大きな輪の中に入るのは、容易なことではなかったのです。

私はこのことを母に伝えました。母は「自分で決めたんじゃないの？頑張って声をかけてみなよ。力になるよ。」と言ってくれました。それでも、クラスは楽しいのに：部活のことばかり考えてしまうことが続きました。それから少し経って、このままでは駄目だと気づき、思い切って一人の女の子に声をかけてみました。最初は話しかけることさえ抵抗を感じ、何度も思い悩みました。それでも話しかけてみると、その子はとても優しく、「私も話せる子がいなかったんだ。よろしくね。」と言ってくれました。その

瞬間、勇気を出して声をかけることができ、本当に良かったと思いました。

それからは、部活に全力で取り組み、日々成果を上げられるように頑張っています。あの時に出した小さな勇気を大事にして何事にも挑戦することを心がけるようにしたのです。その後、部活では、あの時声をかけた友達と共に練習に励んでいます。また、このことをきっかけに、今まで一緒に練習したことがなかった人にも、自分から積極的に声をかけて練習するようにしています。今では部活がとても楽しいです。

「小さな勇気」を出したあの日から一年。私はまた同じような出来事に遭いました。それは、二年生のクラス替えのことです。春休みの最中からずっとドキドキしていたので、始業式当日は、どんなクラスになるのか不安でした。でも、私は、たった一言、声をかけるだけで、未来が変わることを経験しました。今回も精一杯の勇気を出しました。今は、不安だった新しいクラスでも、とても楽しく過ごせています。

たくさんの失敗や迷いの中から私が生み出した「小さな

勇気」。この合言葉は、今後の学校生活、社会生活の中でも大きなカギとなってくるのではないかと思われます。

例えば、ポツンと一人でいる子が気になった時。「一緒にやろう！」の一言は、その子にも、声をかけた方にも、新しい人間関係の広がりをもたらしてくれるでしょう。例えば、道端に落ちているゴミが気になって、そっとゴミ箱に入れてみた時。その行為を見かけた人が一緒に手伝ってくれたとしたら？そんな些細な一人の行動が、多くの人たちの良心を呼び起こす大きな輪となっていくことでしょうか。世の中には、「こうしたい」「こうなりたい」という思いがありながらも、私のように、最初の一步が踏み出せずに、思いとどまってしまふ人がたくさんいるように思います。

皆さんは、「ファースト・ペンギン」という言葉を知っていますか？南極や北極で、荒れ狂う冷たい流水の海にも、仲間達の先頭を切って飛び込む一番初めのペンギンのことを言うそうです。「小さな勇気」をもって声をかけたあの日。さあ、私と一緒に、あなたもファーストペンギンになりませんか？